



説教	恐れるな、語り続けよ	…… 田中 忠良 …… 1
教会の課題	終末の希望に立って	…… 金田 聖治 …… 2
新約聖書学への招待	ルカ2章49節の新しい訳 第3回	…… 住谷 真 …… 3
■	旧日本基督教会の草創期一植村正久を中心に(3) キリスト教的宗教概念の土着化の試み	…… 崔 炳一 …… 4
目次	教会、この地とともに② 宜野湾告白教会 「この民と共に」	…… 島田 善次 …… 5
■	6人の牧師による座談会① み言葉に照らされて	…… 編集部 …… 6
	心のひっかかり	…… 吉田 貴彦 …… 7
	こいのにあ 岐阜教会牧師就職式 アドベントの賜物	…… 宮川 典夫 …… 7
	丹波昌子先生 追悼文	…… 森田 幸男 …… 8
	教会ニュース	…… 8



恐れるな、語り続けよ

「恐れるな。語り続けよ。黙っているな。…この町には、わたしの民が大勢いるからだ。」
(使徒言行録18章9-10節)

た なか ただ よし
田 中 忠 良

ギリシャの大きな港町、コリントでの伝道活動が記録されています。

I. 人間の恐れ 9節

私達は誰かを、何かを恐れる時に、そこから逃げ出そうとします。迫ってくる危険や苦しみに息苦しくなり、ストレスが溜まり、自由に伸び伸びと生きていくことができなくなります。

パウロを傷つける言葉や無視、無関心、擲諭。その大きな理由は「メシアはイエスである」と力強く証したからです。自分たちが大切に守り続けてきた価値観と合わない、気に入らないから。どんな人間関係にも付きまってくる問題です。

「わたしには責任がない」(6節)。パウロは、服の塵を振り払って、激しい怒りの感情を表しています。服の塵を振り払うとは自分に責任がない事を示す為の風習です。

II. 主イエスのご命令の言葉 9節

「ある夜のこと」、パウロは心の中にある不安、恐れ、怒りの感情が増大して、しかも肉体に幾多もの持病を抱えていて、なかなか眠りにつくことができなかった。全ての事が無意味に思えてくる時がある。ウツ状態。

そのパウロに与えられたのが「恐れるな。語り続けよ」という言葉です。恐れは必ず否定的な感情を生み出し、伝道の妨げになります。恐れを捨て去りなさい。黙ってはいけません。相手が聴くか聴かないかが問題ではない。神の言葉を語り続ける事の大切さ。どんなに無視され、笑われても…。

「わたしには責任がない」(6節)、パウロは大きな失望、落胆に陥り、全てが無意味に思えてきて、こ

れ以上我慢することができず、コリントの町を去ろうと固く決意するのです。

III. 主イエスの約束の言葉

「わたしがあなたと共にいる」 10節

たとい、コリントの町の多くの人たちがあなたに背中を向けたとしても、この私はいつもアナタと一緒にいるよ…。

「あなたを襲って危害を加える者はない」(10節)、伝道に困難や苦しみが無い、ということではない。信仰に反対する人たちはどこにも居る。パウロは自分の力に限界を感じても、そこで絶望しなかった。父なる神の確かな守りを確信していたのです。

「この町には、私の民が大勢いる」 10節

神が選んで下さった人たちが存在する。神が主体的に選んで下さった人たちとの出会い—それが伝道する大きな喜びの根拠、理由です。ユダヤ教のリーダー、会堂長のクリスポ、十字架の救いを嫌悪していた人物、その家族。また、コリントの町の多くの人たち…。

誰が神に選ばれているのかは誰にも分からない、私は、自分を見てもそう思うのです。これこそ、確かな神の選びの恵みなのです。

コリントの町は、偶像礼拝が盛況で“コリントの町には行かないように。危険がいっぱい待ち受けている”と古くから言われていた所。パウロは1年6ヶ月、そこにどっかりと腰を落ち着けて伝道し続けました。結果に左右されないで。慢性的な自殺願望者。全てを否定して死を願っていたこの私にも福音の言葉が届けられ、今があるのです。主に感謝。

(遠浅教会牧師)